

こころの掲示板

当センターの相談内容が一部変更となり、専門相談になりました！

New 専門相談

ご本人やご家族の悩みについて相談に応じています。面接は予約制になっていますので、まずは専門相談電話にお問い合わせください。

専門相談電話：(092)737-8829（祝休日、年末年始を除く、下記の日時）

専門相談	相談内容	日程	時間
電話	依存症・ひきこもり	毎週火曜日・木曜日	午前10時～午後1時
	発達障がい・性同一性障がい	第1・第3水曜日	
面接	依存症	第1・第3火曜日	午後
		第2・第4木曜日	
	ひきこもり	月1回の金曜日	午前

自殺予防相談

自殺を考えるほど悩んでいるご本人やご家族、支援者の方などからのご相談に応じます。

専門相談電話：(092)737-1275

【相談日】月曜日～金曜日（祝休日、年末年始を除く） 【時間】午前10時～午後4時

New 家族教室のご案内

当センターでは、「依存症」や「ひきこもり」についての悩みを抱える家族のための教室を開催しています。教室では、正しい知識を身につけ、本人への対応方法について学びます。

家族教室	対象者
アルコール	家族の飲酒問題に悩んでいる方
薬物依存症	家族の薬物依存問題に悩んでいる方
ひきこもり	概ね20歳以上の社会的ひきこもりの方の家族

New 薬物依存症回復支援プログラムのご案内

ワークブック(SMARPP-16)を用いて、依存症に対する理解や治療動機を高めること、同じ悩みをもつ仲間と新しい生き方を獲得すること等をめざします。

【家族教室及び回復支援プログラムの申し込み】
すべての教室が予約制になっており、事前面接を行っています。詳細については、お問い合わせください。

専門相談電話：(092)737-8829

※専門相談電話の受付は、火・木曜日の午前10時～午後1時

福岡市ひきこもり成年地域支援センター「よかよかルーム」のご案内

福岡市在住の概ね20歳以上のひきこもり本人やそのご家族などの相談に応じています。電話や面接（予約制）必要に応じ訪問相談（ご本人の了解が必要）を行います。

専門相談電話：(092)716-3344

【相談日】月曜日～金曜日（最終火曜日・祝休日・年末年始を除く）

【時間】午前10時～午後5時

【場所】あいれふ3階



交通案内

- 西鉄バス「長浜2丁目」バス停より徒歩約3分（那の津通り）
- 西鉄バス「法務局前」バス停より徒歩約5分（昭和通り）
- 西鉄バス「赤坂門」バス停より徒歩約7分（明治通り）
- 地下鉄「赤坂」駅3番出口より徒歩約7分

平成27年8月発行 福岡市精神保健福祉センター
催し物につきましては「**市政だより**」でご案内しています。
「こころの健康だより」についてのご意見等がありましたら、是非お知らせ下さい。

第45号 2015年8月

こころの健康だより



ハートメディア2014 出展作品

福岡市精神保健福祉センター

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-5-1 あいれふ3階
代表電話：(092)737-8825
FAX：(092)737-8827
福岡市HP：http://www.city.fukuoka.lg.jp

CONTENTS

- ①新入職員あいさつ…………… 1
- ②依存症対策（特集）…………… 2～3
- ③こころの掲示板…………… 4

新入職員あいさつ

副所長 川上 寛

4月に博多区保険年金課より異動してまいりました副所長の川上寛と申します。私は学生時代にコーラス系サークルで知的障がい児の施設訪問活動を企画し、サークル内で何度も議論をして、訪問活動を始めました。最初は自分たちが何かしてあげると意識での訪問でしたが、子供たちと触れ合い、歌ったり、遊んだりする中で、笑顔と元気をもらい、多くのことを学んだように思います。大学卒業後は、社会福祉に興味を持ち市役所に入庁しました。これまで救急医療、地域医療、医薬務、地域保健、地域包括支援センター、民生委員事務局、こども病院、国民健康保険など保健福祉関係業務を担当してきました。

精神保健福祉センターは、福岡市における精神保健福祉の専門的中枢機関です。各区における精神障がい者相談支援センターや保健福祉センターでの一般的な精神に関する相談事業に対し、当センターでは、アルコール・薬物・ギャンブルなど依存症、ひきこもり、発達障がい、性同一性障がいの専門相談に取り組んでいます。また、依存症やひきこもりの人の社会復帰の支援、適正な精神障害者保健福祉手帳等の審査、精神科入院患者の処遇等に関する審査、自殺予防対策事業等を行っています。ひきこもり成年地域支援センター「よかよかルーム」も併設しています。

今後とも、河野所長の意欲的な取り組みを副所長として補佐し、スタッフ一同、スキルアップをはかり、精神保健福祉業務を推進してまいります。

今年度新たに加わったスタッフ共々よろしくお願い致します。



宇佐美 貴士（相談指導係）

本年度より当センターでは「依存症」や「ひきこもり」、「発達障がい」や「性同一性障がい」といった専門相談に取り組んでいます。当事者の方やご家族の方の悩みや不安の解消に、少しでも力になればと思っています。

神前 洋帆（相談指導係）

私は長い間、県外にいたので、地元である福岡で働けることをとても嬉しく思っています。少しでも早く慣れ、たくさんの方の生活をお手伝いできればと思いますので、よろしくお願いします。

澤田 朋香（管理係）

4月に異動してきて自立支援医療にかかわる申請などの事務を担当しています。戸惑うこともありますが、効率的な事務処理ができるように頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

高崎 大志（管理係）

管理係で、精神医療審査会事務局を担当しております。精神障がいに関する業務に携わるのは今回が初めてで、まずは用語や関係法令の勉強などをしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

福岡市精神保健福祉センターでの依存症対策

所 長 河 野 亨

I 福岡保護観察所との出会い

福岡市精神保健福祉センター（以下、当センター）では、開設当初より、「こころの相談電話」のなかでの相談という形で、依存症への対応を行ってはいましたが、市内に、2ヶ所のアルコール依存症の専門治療医療機関を除き、依存症に対応できる相談機関や医療機関がほとんどなく、DARC等の自助グループに過剰な負担がかかっているという、残念ながら、必ずしも十分な対応ができていたとは言い難い状況でした。

平成22年10月に私が当センターの所長に赴任して以来、この現状を何とかしたいとは思っていまし

たが、なかなか具体的な方策を見つけれないでいました。そんな折、福岡保護観察所から、平成25年度からの薬物事犯者引受人講習会の講師依頼、福岡保護観察所が主催する福岡県薬物乱用問題研究会への参加依頼、保護観察が終了した後の、薬物依存症者を紹介できる相談機関、医療機関、自助グループ等の情報提供依頼と共に、不足しているそれらの支援組織の充実の要望等が、当センターに対してなされました。これを契機に、福岡保護観察所との情報交換が活発になりました。

II 福岡市精神保健福祉センターの変化

平成25年度は、この年に改定された福岡市自殺対策総合計画に基づき、自殺対策係が新設され、当センター内に自殺予防情報センターが設置され、福岡市の自殺対策が本格化した年でもありました。そんな中、自殺対策の観点からも依存症への対応が重要であるという認識が深まってきました。

また、平成25年度末に、国立病院機構九州医療センターのAIDS/HIV総合治療センターから、患者さんの多くが、薬物依存症の可能性が高いと思われるとのことで、相談機関、医療機関、自助グループ等の支援組織の情報提供を求められました。今更ながら、提供できる情報がほとんどないという福岡市の状況を再認識しました。

さらに、平成26年5月から、雁の巣病院が、アルコールに加えて薬物依存症の外来・入院治療を本格的に開始しました。これらのことが、非常に大きな刺激となり、当センターでの薬物依存症対策の平成27年度からの開始に向けての本格的な検討を開始しました。

既に、当事者・家族等への支援プログラムを実施している福岡保護観察所及び雁の巣病院からの情報提供や実際のプログラム実施状況の見学、プログラムの原型とも言えるSMARPP（※1）関連研修会への職員の派遣、福岡保護観察所との共催による国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所の松本俊彦先生による薬物依存症研修会の開催、東京都多摩精神保健福祉センターからのTAMARPP（※2）に関する情報提供依頼、雁の巣病院及び埼玉県立精神医療センターからのLIFE（※2）に関する情報提供依頼、雁の巣病院及び倉光病院からの依存症専門面接相談への専門医の派遣依頼、自助グループである九州DARC、ジャパンマック福岡への教室運営への助言・協力依頼等々、多くの関係者の方々のご協力により、着々と準備は進んでいきました。ご協力を頂いた皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

その経過の中で、以前から要請が多かった、ひきこもり、発達障がい、性同一性障がいへの対応についても、同時に検討し、専門電話・面接相談の開設や家族

教室の開催にこぎつけました。このように、他の分野に関しても、職員の意識やモチベーションが変化していったこと、さらに、雁の巣病院と倉光病院の先生方から、アルコールを含む薬物依存（物質）のみならず、ギャンブル依存（過程）への専門電話・面接相談の開設の提案を頂いたことは、全く予想外の収穫でした。

平成27年度からの当センターの相談体制については、4ページにまとめて、掲載されています。因みに、SMARPP等のプログラムを用いた当事者の支援を行っているのは、全国に69ヶ所ある精神保健福祉センターの中でも、当センターを含め、12ヶ所しかありません。

III 福岡市精神保健福祉センターの今後

当センターが、今、まず最初に行う必要があるのは、支援の質を高めていくことです。短い準備期間であったこともあり、相談への対応、教室の運営等には、若干の不安も感じています。今後も、あらゆる場面でのスキルアップに努めていきたいと考えています。その次には、高めたスキルを用いて、研修会を開催する等、

相談窓口の開設や当事者・家族への支援をしてくれる組織が一つでも増えるような働きかけをしていくことです。将来的には、支援組織が共通に使用できるプログラム（名前は何にしましょうか）が作成できれば楽しいだろうな等々、夢のようなことを考えています。今後とも、ご支援、ご協力をお願いいたします。

※1 SMARPP

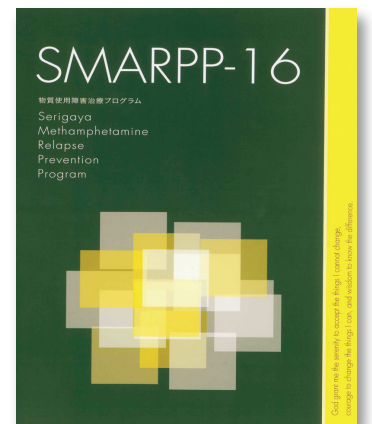
(Serigaya Methamphetamine Relapse Prevention Program)

主に覚せい剤依存症患者を対象とした外来で実施される治療プログラムとして、旧神奈川県立精神医療センターせりがや病院で開発されたもの。詳細については、以下にアクセスしてみてください。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/SMARPP>

※2 TAMARPP、LIFE

SMARPPを基にして、各施設の実情に応じて、いくつかの変更が行われて、各施設で独自に使用されているプログラム。



講演会のお知らせ

「ギャンブル依存症とは」

～人はなぜギャンブルをやめられないのか？～

【講師】森山 成彬氏（通谷メンタルクリニック院長）

【日時】平成27年9月2日（水）
14:00～16:00（受付13:30～）

【場所】あいれふ10階 講堂（福岡市中央区舞鶴2-5-1）

【対象】福岡市民（定員100名）

※参加費無料

【申込締切】平成27年8月24日（月）

ハートメディア 2015 市民講演会

「子どもと大人の発達障がいの理解」

～気づかない？気づけない？見過ごしている？～

【講師】星野 仁彦氏（福島学院大学副学長、医学博士）

【日時】平成27年10月21日（水）
18:30～20:30（受付18:00～）

【場所】あいれふ10階 ホール（福岡市中央区舞鶴2-5-1）

【対象】福岡市民（定員250名）

※参加費無料

【申込締切】平成27年9月18日（金）

【上記の講演会の申込方法】

① 講演会名 ② 氏名 ③ 連絡先電話番号をご記入のうえ、FAX、メール、ハガキでお申込みください。

Email : seishinhoken.PHWB@city.fukuoka.lg.jp